



株式会社ひめぎんソフト
代表取締役 矢野 一彦



外国人材と共に 成長する企業へ

－株式会社ひめぎんソフトの挑戦と未来－

IT人材の不足という課題を背景に、株式会社ひめぎんソフトは外国人材との協働に踏み出した。初めての採用には不安も伴ったが、試行錯誤を重ねる中で、組織や働き方に新たな変化が生まれている。外国人材は単なる人手不足の補完ではなく、ともに成長するパートナーである――。現場でのリアルな経験を通じて見えてきた可能性と、地域から世界へと広がる未来像を紹介する。

1. 地域課題から始まった外国人材との出会い

当社が外国人材を採用するきっかけとなったのは、令和4年度から開始された愛媛県によるアジア高度人材受入促進事業に参加したことでした。本事業は、愛媛県が令和3年に策定した「愛媛県デジタル総合戦略」に基づき、2030年までにデジタル人材1万人創出を目指す取組の一環として実施されたものです。

愛媛銀行グループとしても初めての外国人採用であり、手探りの中での挑戦でしたが、初年度に1名、2年目に2名を採用し、現在3名のネパール人技師が活躍しています。

背景には、IT人材の慢性的な不足という構造的課題があります。少子高齢化・人口減少が進む地方において、デジタル人材の確保は企業の存続に直結する重要なテーマでした。

最終的な採用の決断を後押ししたのは、「やってみるかのお」という大先輩の一言でした。

2. 受け入れ準備と立ち上げ期の工夫

これまでも外国人との接点はありましたが、自社の社員として迎えることは次元の違うものであることは容易に想像できました。

仕事への適応は大前提として、生活面での支援やプライベートで孤立しないこと、メンタル面のサポートなど懸念材料は枚挙にいとまがありませんでした。

そうした中で、来日前の準備として愛媛県の国際交流センターなどの公的機関をはじめ、地域のネパール料理店に至るまでネパール関連の情報収集を行いました。また、愛媛県の事業の一環として半年間の日本語学習プログラムが用意され、生活面では銀行の寮への入居など、出来る限りのサポート体制を整えました。

しかし入社後は、社内でのコミュニケーションや仕事への関与など、先行きに不安を感じる状況が続きました。

業務の特性上かもしれませんが、プログラマーは積極的に会話を交わす職種ではありません。「コンピューター言語という共通言語があるから大丈夫」との思いもありましたが、実務では日本語によるコミュニケーションの重要性を強く感じました。

こうした課題に対応するため、日誌の作成と読み合わせを導入し、業務や生活の様子を日々共有する取組を継続しています。地道ではありますが、状況把握に役立つとともに、日本人社員にも「伝えること」への意識が生まれ、指示の明確化など組織面での変化にもつながりました。

外国人との接点は、社員自身の働き方を問い直す契機にもなっています。

3. 共に働く中で生まれた成果と成長

これらの取組を通じ、外国人社員の成長が着実に見られるようになってきました。

AI分野に強みを持つ社員がプロジェクトに加わり、外部に委ねていた業務領域に新たな可能性が広がりました。

また、現場で発生したシステムエラーに対し、ネパール人社員自ら現地で対応し解決した事例もあり、技術力のみならず自信と責任感の醸成につながっています。

現在は後輩2名を加えた「チームネパール」として活躍しており、先に来日したサチンさんは愛媛大学博士課程に進学し、昨年末には松山東雲女子大学での出前授業を行うまでになりました。

業務外においても、飲食や行事参加を通じて日本人社員との交流が広がっています。

このような積み重ねが、組織全体の変化につながっています。



2024年松山野球拳おどり
ひめぎん連の一員として参加

4. 課題への対応と新たな可能性

外国人材の受け入れにあたっては、言語や文化、働き方の違いによる課題も避けて通れません。

また、外国人を取り巻く環境は日々変化しており、地域によっては対立や摩擦が表面化するなど、日本社会全体として向き合い方が問われています。

愛媛県では比較的落ち着いた状況ではあるものの、県の事業で来日したネパール人35名のうち12名が離職しているという現実もあります。

こうした状況は、外国人材を単なる労働力として捉えることの難しさを示しています。企業側の都合だけでなく、一人ひとりの目的や背景を理解することが求められています。

一方で新たな可能性も広がりつつあります。愛媛県や松山市による企業誘致の進展により、他社との協働の機会も生まれています。現在はベトナム人技師が当社に常駐し、共同で課題解決に取り組んでいます。

こうした協働は、新しい技術への理解を深めるとともに、自社のレベルアップの必要性を認識する機会にもなっています。

これらの経験を踏まえ、今後は海外開発市場の獲得やオフショア開発の実現など、より広い視野での事業展開も見据えています。

5. 外国人材と共に描く未来

外国人材は、単に人手不足を補う存在ではありません。

来日する一人ひとりが夢や希望、目的を持っており、企業としては「共に成長するパートナー」として向き合うことが重要です。

文化や価値観の違いを乗り越えていくことは容易ではありませんが、その先にはこれまでにない組織の姿が見えてくるはずです。

当社は愛媛銀行グループの一員として、地域経済を支える役割を担い、企業DXの支援や金融システムの高度化などに取り組んでいます。

さらに、住居や生活基盤、金融面でのサポートなど、外国人材が安心して暮らし、成長できる環境づくりにも力を入れています。

愛媛という地域から世界へ。外国人材とともに成長を重ね、地域に新たな価値を創造していくことを目指します。



打ち合わせ風景